

令和3年度 漁業担い手満足度調査報告書



網起こしの風景

令和4年 11 月
岩手県農林水産部水産振興課

目次

I 調査の概要	1
II 調査結果	3
III まとめ	9
参考資料	10

I 調査の概要

1 調査の目的

本県における「なりわい」としての漁業の魅力について、漁業者の満足度を指標として定量化するとともに、満足度に影響を与える要因を分析し、就業環境の改善などの漁業担い手対策の参考とするもの。

2 調査設計

- (1) 調査対象
- ①岩手県漁業士[※]（令和3年12月1日現在の名簿登載者）
87名（青年漁業士21名、指導漁業士66名）
※地域漁業の中核的な役割を担う者として知事の認定を受けた者
 - ②若手漁業者（沿海地区漁協に所属する着業10年未満の漁業者）
72名（24漁協×各3名）
- (2) 調査方法 設問票によるアンケート調査
- (3) 調査時期 令和3年12月～令和4年1月

3 調査項目

- (1) 総合満足度 現状についての総合的な満足度（表1）
- (2) 個別満足度 満足度に関係する可能性のある30項目についての満足度（表2）

4 有効回答数

- (1) 岩手県漁業士 52名（青年漁業士11名、指導漁業士41名） 回収率59.8%
- (2) 若手漁業者 23名 回収率31.9%

5 報告書の記載上の留意点

- (1) 総合満足度は、「非常に満足」、「満足」、「やや満足」、「ふつう」、「やや不満」、「不満」、「非常に不満」、の7段階評価とし、それぞれ「3点」から「-3点」までの1点刻みで数値化して分析した。

$$\begin{array}{l} \text{算定式} \\ \text{総合満足度 (平均点)} = \frac{(\text{'非常に満足'} \times 3\text{点}) + (\text{'満足'} \times 2\text{点}) + (\text{'やや満足'} \times 1\text{点}) + (\text{'ふつう'} \times 0\text{点}) + (\text{'やや不満'} \times (-1\text{点})) + (\text{'不満'} \times (-2\text{点})) + (\text{'非常に不満'} \times (-3\text{点}))}{(\text{回答者数})} \end{array}$$

※総合満足度は、3.00点～-3.00点の値で、高いほど満足度が高いことを表す。

- (2) 個別満足度は、項目ごとに、「そう思う」、「まあ思う」、「あまりそう思わない」、「そう思わない」の4段階で評価し、それぞれ「4点」から「1点」までの1点刻みで数値化して分析した。
- (3) 総合満足度の要因分析は、総合満足度と個別満足度の相関係数を算出し、偏差値に変換したうえで評価した。
- (4) グラフ中の「n」は、各項目の回答者数を表す。

表 1 総合満足度の設問構成

設問	評価基準
あなたは、総合的に考えて、現在の漁業の仕事や環境にどの程度満足していますか。	7段階評価 ①非常に満足 ②満足 ③やや満足 ④ふつう ⑤やや不満 ⑥不満 ⑦非常に不満

※3点(非常に満足)～-3点(非常に不満)で採点し加重平均値を算出した。

表 2 個別満足度の設問構成

要因区分	項目	設問	評価基準
仕事	(1) やりがい	漁業にやりがいを感じている。	4段階評価 ①そう思う ②まあそう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない
	(2) 将来への希望	漁業者としての自分の将来に希望を感じている。	
	(3) 責任感	水産物の食料供給を担う責任ある仕事だと思う。	
	(4) 能力の活用	自分の能力が活かせる仕事だと思う。	
	(5) 生産物への誇り	自分の生産物や地域のブランドに誇りをもっている。	
	(6) 継続意欲	体力と意欲が続く限り働き続けられる仕事だと思う。	
自己の成長	(7) 成長期待	仕事を通じて人として成長できると思う。	同上
	(8) 自己啓発	自身の能力向上(試験研究、研修、講習会等)の機会に恵まれていると思う。	
経営目標	(9) 経営目標	自分には明確な経営目標がある。	同上
	(10) 経営規模拡大	現在の漁業経営の規模を拡大したい。	
	(11) 共同生産への興味	他の漁業者等との共同生産に興味がある。	
	(12) 後継者	後継者、又は後継者として見込んでいる者がいる。	
他の漁業者との関係	(13) 尊敬できる漁業者	地域に尊敬できる漁業者がいる。	同上
	(14) 漁業者間の信頼	必要なときに他の漁業者に相談できる環境にある。	
	(15) 漁業就業者支援	地域には、漁家子弟や未経験者の漁業就業を支援する環境が整っていると思う。	
地域住民や消費者との関係	(16) 地域とのつながり	近隣住民とのつきあいが多く、地域とのつながりが深い。	同上
	(17) 消費者とのつながり	消費者と対話する機会を積極的に確保している。	
漁協との関係	(18) 漁協への帰属意識	所属する漁協の組合運営や経営方針、取組等(「地域再生営漁計画」等)に理解を示している。	同上
	(19) 漁業秩序の維持	地域の漁業者はルールを守って操業している。	
	(20) 漁業権行使	十分な漁業権の行使機会に恵まれている。	
	(21) 漁協への信頼	必要なときに漁協に相談できる環境にあると思う。	
	(22) 役割の発揮	地域には年齢、経験、性別に応じて、それぞれの役割を発揮できる漁業生産環境が整っている。	
	(23) 仕事量・労働時間	現在の自分の仕事量や労働時間・休暇のバランスは、妥当な水準だと思う。	
労働条件	(24) 労働力	漁業生産のために十分な労働力が確保できている。	同上
	(25) 設備・機器	漁業生産のために十分な設備・機器が整っている。	
	(26) 漁場環境	漁場の生産環境は良好である。	
収入	(27) 単価水準	生産物の単価は妥当な水準だと思う。	同上
	(28) 評価基準	生産物の評価基準や評価体系は明確だと思う。	
	(29) 収入水準	現在の自分の収入は妥当な水準だと思う。	
	(30) 努力の反映	自分の努力は収入に適切に反映されていると思う。	

※4点(そう思う)～1点(そう思わない)で採点し平均値を算出した。

Ⅱ 調査結果

1 回答者の属性

区分別	漁業士(A)		若手漁業者(B)		全体(A+B)	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比
青年漁業士	41	78.8%		0.0%	41	54.7%
指導漁業士	11	21.2%		0.0%	11	14.7%
若手漁業者		0.0%	23	100.0%	23	30.7%
合計	52	100.0%	23	100.0%	75	100.0%

性別	漁業士(A)		若手漁業者(B)		全体(A+B)	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比
男性	50	96.2%	23	100.0%	73	97.3%
女性	2	3.8%		0.0%	2	2.7%
合計	52	100.0%	23	100.0%	75	100.0%

年代別	漁業士(A)		若手漁業者(B)		全体(A+B)	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比
20代(20～29歳)		0.0%	8	34.8%	8	10.7%
30代(30～39歳)	3	5.8%	9	39.1%	12	16.0%
40代(40～49歳)	14	26.9%	5	21.7%	19	25.3%
50代(50～59歳)	21	40.4%	1	4.3%	22	29.3%
60代(60～66歳)	14	26.9%		0.0%	14	18.7%
未回答		0.0%		0.0%	0	0.0%
合計	52	100.0%	23	100.0%	75	100.0%

漁業種別	漁業士(A)		若手漁業者(B)		全体(A+B)	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比
漁船漁業	6	11.5%	7	30.4%	13	17.3%
養殖業	41	78.8%	16	69.6%	57	76.0%
採介藻漁業	5	9.6%		0.0%	5	6.7%
その他・未回答		0.0%		0.0%	0	0.0%
合計	52	100.0%	23	100.0%	75	100.0%

地区別	漁業士(A)		若手漁業者(B)		全体(A+B)	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比
県北	13	25.0%	5	21.7%	18	24.0%
宮古	15	28.8%	7	30.4%	22	29.3%
釜石	6	11.5%	3	13.0%	9	12.0%
大船渡	18	34.6%	8	34.8%	26	34.7%
合計	52	100.0%	23	100.0%	75	100.0%

年収階層別	漁業士(A)		若手漁業者(B)		全体(A+B)	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比
200万円未満	3	5.8%	9	39.1%	12	16.0%
200～400万円	7	13.5%	9	39.1%	16	21.3%
400～600万円	9	17.3%	3	13.0%	12	16.0%
600～800万円	7	13.5%	1	4.3%	8	10.7%
800～1,000万円	7	13.5%		0.0%	7	9.3%
1,000万円以上	18	34.6%	1	4.3%	19	25.3%
無回答	1	1.9%			1	1.3%
合計	52	100.0%	23	100.0%	75	100.0%

※構成比: 小数点第2位を四捨五入(数値の合計が100%にならない場合がある)

2 総合満足度の分析

(1) 総合満足度の推移

今回の調査では、回答者数 75 人に対して有効回答者数は 69 人であり、総合満足度は 0.06 点と、平成 27 年度の調査開始以降の最低値となりました（図 1）。

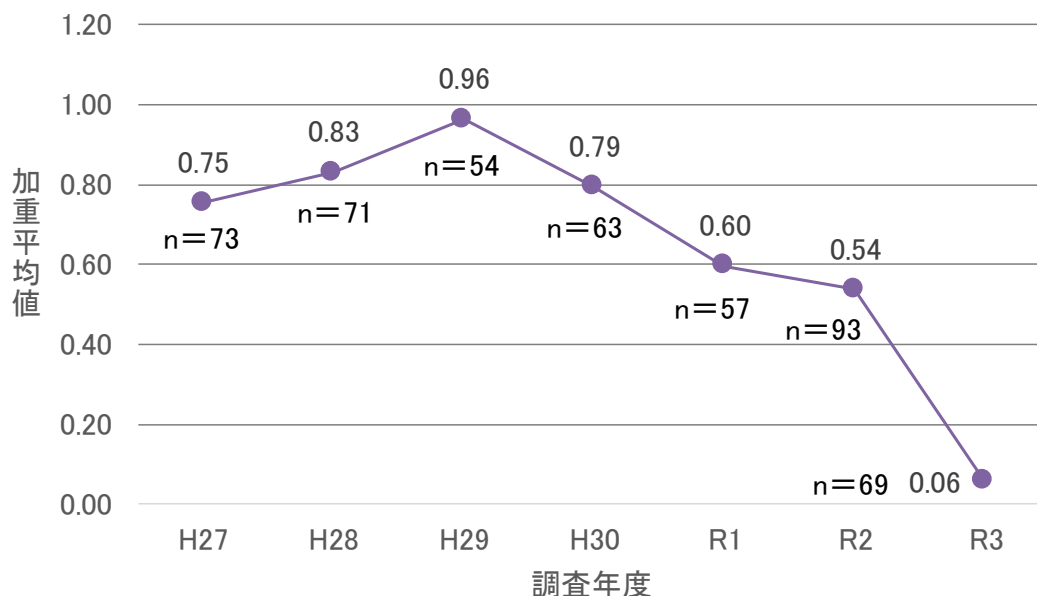


図 1 回答者全体の総合満足度の推移 (n : 有効回答者数)

(2) 漁業種類別の総合満足度

漁業種類別の総合満足度は、漁船漁業が 0.17 点、養殖業が 0.08 点、採介藻漁業が -0.40 点となり、前回の調査と比べて、全ての漁業種類で低下しました（図 2）。

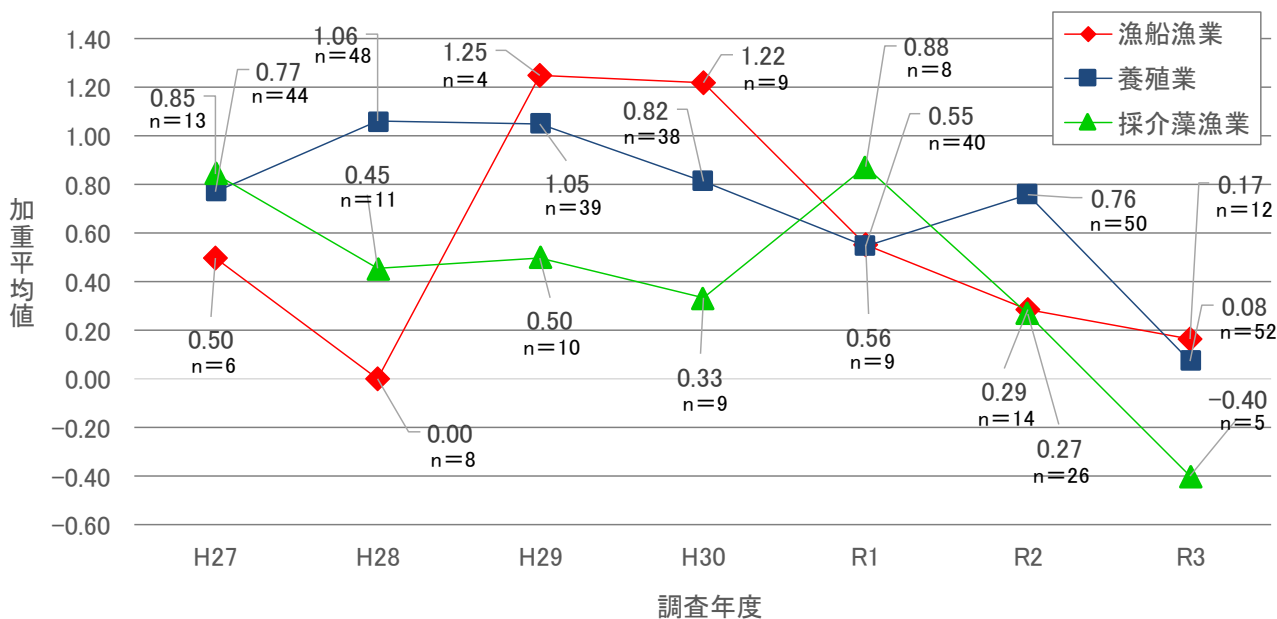


図 2 漁業種別の総合満足度の推移 (n : 有効回答者数)

(3) 総合満足度の構造分析

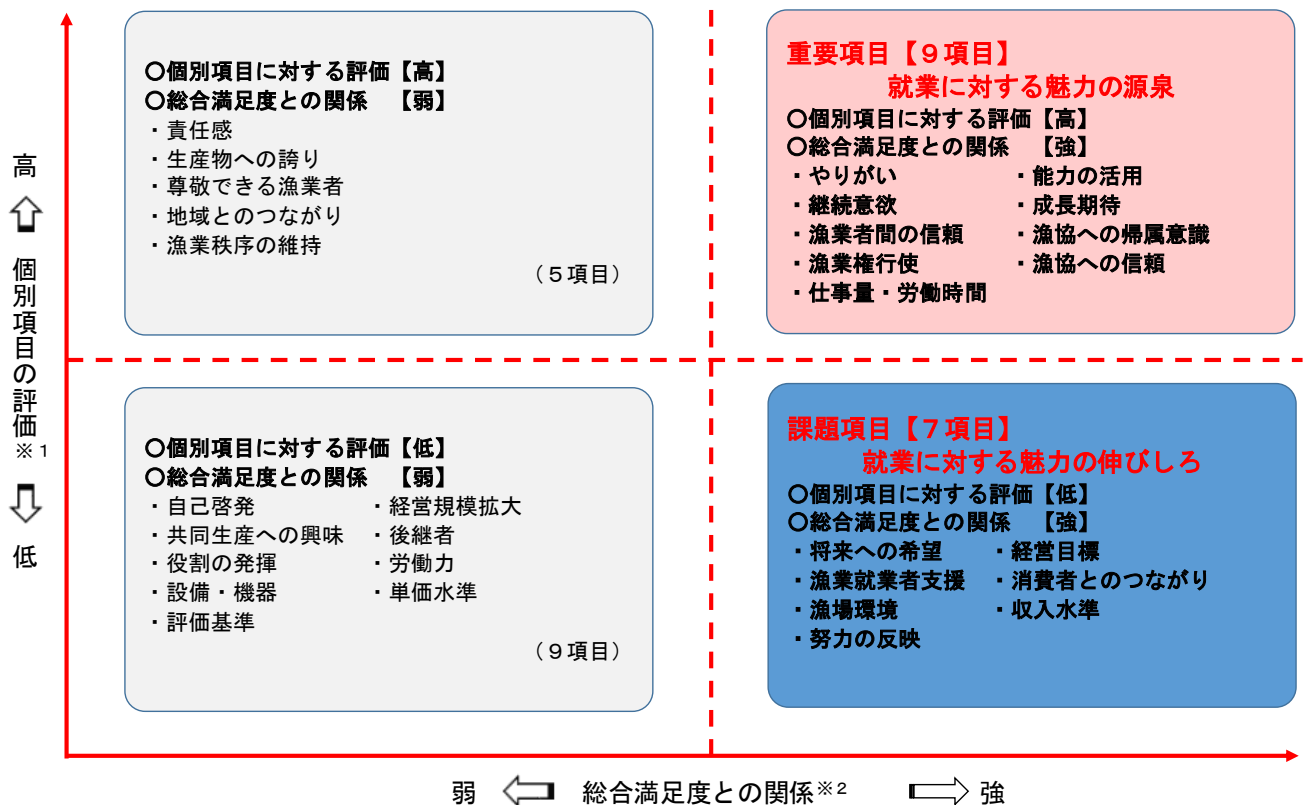
個別満足度の評価項目（30項目）について、総合満足度との相関係数で評価し、総合満足度と関係が強く、かつ個別満足度の高い項目を『重要項目』、総合満足度と関係が強いものの、個別満足度の低い項目を『課題項目』と定義しました。

- ・『重要項目』… 就業に対する魅力の源泉
- ・『課題項目』… 就業に対する魅力の伸びしろ

ア 総合満足度の要因（全体）

今回の調査では、『重要項目』に「やりがい」、「能力の活用」、「継続意欲」、「成長期待」、「漁業者間の信頼」、「漁協への帰属意識」、「漁業権行使」、「漁協への信頼」、「仕事量・労働時間」の9項目が分類されました。

また、『課題項目』として、「将来への希望」、「経営目標」、「漁業就業者支援」、「消費者とのつながり」、「漁場環境」、「収入水準」、「努力の反映」の7項目が分類されました（図3）。



※1) 個別項目の評価の高低（各設問に対する「そう思う」「まあそう思う」の構成比の合計の偏差値）

※2) 個別項目の評価と総合満足度との関係の強弱（単相関係数の偏差値）

図3 総合満足度の要因

イ 総合満足度における重要項目と課題項目の推移

過去6年間の調査で、「やりがい」、「将来への希望」、「能力の活用」、「成長期待」、「経営目標」、「努力の反映」の6項目は『重要項目』又は『課題項目』の何れかに分類される頻度が高く、本調査において、「総合満足度を左右する特に重要な項目」に位置付けられています。

このうち、今回の調査では、『重要項目』に「やりがい」、「能力の活用」、「成長期待」の3項目、『課題項目』に「将来への希望」、「経営目標」、「努力の反映」の3項目が分類されました(表3)。

一方、2年連続で、『重要項目』に「漁協への帰属意識」、「漁協への信頼」の2項目、『課題項目』に「漁場環境」が分類されました(表3)。

表3 重要項目と課題項目の推移

要因区分	項目	設問	調査年度						
			H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			重要項目:◎ 課題項目:■						
仕事	やりがい	漁業にやりがいを感じている。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	将来への希望	漁業者としての自分の将来に希望を感じている。	■	◎	◎	■	◎	◎	■
	責任感	水産物の食料供給を担う責任ある仕事だと思う。							
	能力の活用	自分の能力が活かせる仕事だと思う。	◎		◎	◎	◎	◎	◎
	生産物への誇り	自分の生産物や地域のブランドに誇りをもっている。			◎				
	継続意欲	体力と意欲が続く限り働き続けられる仕事だと思う。					◎	◎	◎
自己の成長	成長期待	仕事を通じて人として成長できると思う。	◎	◎		◎			◎
	自己啓発	自身の能力向上(試験研究、研修、講習会等)の機会に恵まれていると思う。			◎		◎	◎	
経営目標	経営目標	自分には明確な経営目標がある。	◎		◎	◎			■
	経営規模拡大	現在の漁業経営の規模を拡大したい。	■						
	共同生産への興味	他の漁業者等との共同生産に興味がある。							
	後継者	後継者、又は後継者として見込んでいる者がいる。							
他の漁業者との関係	尊敬できる漁業者	地域に尊敬できる漁業者がいる。						◎	
	漁業者間の信頼	必要ときに他の漁業者に相談できる環境にある。			◎				◎
	漁業就業者支援	地域には、漁家子弟や未経験者の漁業就業を支援する環境が整っていると思う。						■	■
地域住民や消費者との関係	地域とのつながり	近隣住民とのつきあいが多く、地域とのつながりが深い。	◎						
	消費者とのつながり	消費者と対話する機会を積極的に確保している。							■
漁協との関係	漁協への帰属意識	所属する漁協の組合運営や経営方針、取組等(「地域再生営漁計画」等)に理解を示している。						◎	◎
	漁業秩序の維持	地域の漁業者はルールを守って操業している。						◎	
	漁業権行使	十分な漁業権の行使機会に恵まれている。							◎
	漁協への信頼	必要ときに漁協に相談できる環境にあると思う。			◎			◎	◎
	役割の発揮	地域には年齢、経験、性別に応じて、それぞれの役割を発揮できる漁業生産環境が整っている。							
労働条件	仕事量・労働時間	現在の自分の仕事量や労働時間・休暇のバランスは、妥当な水準だと思う。							◎
	労働力	漁業生産のために十分な労働力が確保できている。							■
	設備・機器	漁業生産のために十分な設備・機器が整っている。						◎	
	漁場環境	漁場の生産環境は良好である。							■ ■
収入	単価水準	生産物の単価は妥当な水準だと思う。							■
	評価基準	生産物の評価基準や評価体系は明確だと思う。							■
	収入水準	現在の自分の収入は妥当な水準だと思う。	■			◎		◎	■
	努力の反映	自分の努力は収入に適切に反映されていると思う。	◎	◎	◎		◎		■

3 漁業種類別の個別満足度の分析（前回調査との比較）

(1) 養殖業

「成長期待」、「共同生産への興味」の2項目で満足度が上昇しましたが、要因区分の“仕事”、“他の漁業者との関係”、“漁協との関係”を中心とした23項目で満足度の低下が見られました（表4）。

(2) 漁船漁業

「能力の活用」、「後継者」、「漁協への帰属意識」の3項目で満足度が上昇しましたが、要因区分の“自己の成長”、“収入”を中心とした18項目で満足度の低下が見られました（表4）。

(3) 採介藻漁業

要因区分の“自己の成長”、“漁協との関係”を中心とした13項目で満足度が上昇しましたが、「将来への希望」、「責任感」、「経営目標」、「単価水準」、「評価水準」などの10項目で満足度の低下が見られました（表4）。

表4 個別満足度評価表（漁業種類別）

要因区分	項目	漁業種類											
		養殖業				漁船漁業				採介藻漁業			
		R2	R3	前年比	満足度	R2	R3	前年比	満足度	R2	R3	前年比	満足度
仕事	やりがい	3.48	3.21	△ 0.27	↓	3.36	3.23	△ 0.13	↓	3.12	3.00	△ 0.12	↓
	将来への希望	2.90	2.56	△ 0.34	↓	2.64	2.15	△ 0.49	↓	2.54	1.80	△ 0.74	↓
	責任感	3.38	3.40	0.02	→	3.29	3.38	0.10	→	3.12	2.60	△ 0.52	↓
	能力の活用	3.29	3.09	△ 0.20	↓	2.93	3.31	0.38	↑	2.96	3.00	0.04	→
	生産物への誇り	3.50	3.40	△ 0.10	↓	3.07	3.15	0.08	→	3.54	4.00	0.46	↑
	継続意欲	3.54	3.39	△ 0.15	↓	3.57	3.23	△ 0.34	↓	3.38	3.80	0.42	↑
自己の成長	成長期待	3.12	3.29	0.17	↑	3.29	3.00	△ 0.29	↓	2.88	3.20	0.32	↑
	自己啓発	2.82	2.61	△ 0.21	↓	2.79	2.15	△ 0.63	↓	2.62	3.00	0.38	↑
経営目標	経営目標	2.88	2.77	△ 0.11	↓	2.71	2.69	△ 0.02	→	2.36	2.00	△ 0.36	↓
	経営規模拡大	2.68	2.44	△ 0.24	↓	2.64	2.54	△ 0.10	↓	2.23	2.20	△ 0.03	→
	共同生産への興味	2.08	2.19	0.11	↑	2.50	2.38	△ 0.12	↓	2.15	2.40	0.25	↑
	後継者	2.14	1.88	△ 0.26	↓	2.00	2.31	0.31	↑	1.50	1.40	△ 0.10	↓
他の漁業者との関係	尊敬できる漁業者	3.35	3.00	△ 0.35	↓	3.36	2.85	△ 0.51	↓	3.19	3.00	△ 0.19	↓
	漁業者間の信頼	3.43	3.18	△ 0.25	↓	3.29	3.31	0.02	→	3.19	3.40	0.21	↑
	漁業就業者支援	2.28	2.07	△ 0.21	↓	2.36	2.00	△ 0.36	↓	2.27	2.20	△ 0.07	→
地域住民や消費者との関係	地域とのつながり	3.26	3.18	△ 0.08	→	3.00	3.08	0.08	→	3.31	3.40	0.09	→
	消費者とのつながり	2.36	2.12	△ 0.24	↓	2.00	2.08	0.08	→	2.19	2.20	0.01	→
漁協との関係	漁協への帰属意識	2.84	2.72	△ 0.12	↓	2.29	2.46	0.18	↑	2.96	3.40	0.44	↑
	漁業秩序の維持	3.26	3.16	△ 0.10	↓	2.79	2.54	△ 0.25	↓	3.27	3.60	0.33	↑
	漁業権行使	3.24	2.93	△ 0.31	↓	3.00	2.54	△ 0.46	↓	3.08	3.60	0.52	↑
	漁協への信頼	3.26	3.00	△ 0.26	↓	2.93	3.00	0.07	→	3.23	3.40	0.17	↑
	役割の発揮	2.65	2.48	△ 0.17	↓	2.43	2.42	△ 0.01	→	2.88	3.20	0.32	↑
労働条件	仕事量・労働時間	2.76	2.56	△ 0.19	↓	2.79	2.31	△ 0.48	↓	3.12	3.00	△ 0.12	↓
	労働力	2.46	2.44	△ 0.02	→	2.71	2.15	△ 0.56	↓	2.62	2.40	△ 0.22	↓
	設備・機器	2.84	2.61	△ 0.23	↓	2.50	2.54	0.04	→	2.54	3.40	0.86	↑
	漁場環境	2.50	2.46	△ 0.04	→	2.57	2.15	△ 0.42	↓	2.62	2.80	0.18	↑
収入	単価水準	2.54	2.32	△ 0.22	↓	2.21	1.77	△ 0.45	↓	2.92	2.60	△ 0.32	↓
	評価基準	2.48	2.41	△ 0.07	→	2.14	2.00	△ 0.14	↓	2.77	2.40	△ 0.37	↓
	収入水準	2.70	2.40	△ 0.30	↓	2.57	2.15	△ 0.42	↓	2.77	2.80	0.03	→
	努力の反映	2.90	2.63	△ 0.27	↓	2.86	2.15	△ 0.70	↓	3.00	3.00	0.00	→

※満足度の評価

「そう思う:4」「まあそう思う:3」「あまりそう思わない:2」「そう思わない:1」の4段階で回答を得ており、項目平均の数値が大きいほど満足度の高さを示す。

前年比0.1ポイント以上の変動で満足度の「上昇↑」「低下↓」を判断。

4 考察

総合満足度は、平成27年度の調査開始以降の最低値となり、その要因として、近年の海洋環境の変化による不漁などの影響を受けて、本県の主要魚種である養殖ワカメ、アワビ、秋サケ、サンマ、スルメイカ等の生産額が減少したことや、新型コロナウイルス感染症の流行拡大に伴う魚価の下落などが考えられるところであり、いずれの漁業種類においても、漁業経営の厳しさが増している中、養殖業や採介藻漁業が、上述の影響をより強く受けている状況が推察されます。

総合満足度の構造分析からは、満足度が高い漁業者ほど、仕事にやりがいがあること、仕事に対して自身の能力を活かせること、体力と意欲が続く限り働き続けられることなどに魅力を感じており、また、所属漁協への信頼感や帰属意識を有していることから、これらが、漁業への就業に対する魅力の源泉であると考えられます。

一方で、妥当な水準の収入を確保すること、自身の努力が収入へ適切に反映されること、生産を継続するために良好な漁場環境を保つことなどが求められており、これらが、漁業への就業に対する魅力の伸び代であると考えられます。

漁業種類別の個別満足度の分析からは、養殖業では、全般的に不安感が高まっている状況下であっても、自身の成長や同業他者との共存共栄を目指している傾向、漁船漁業では、不漁に伴う水揚金額の減少が満足度の全体的な低下に繋がっている状況、採介藻漁業では、所属漁協との関係性には満足感が得られているものの、漁業の将来性や収入面で不安を感じている状況が、それぞれ読み取れます。

【トピック①】 漁場環境の改善と収益性向上に向けた取組

- ・ 県では、令和2～4年度の3か年度事業として、漁場におけるウニの生息密度の適正化を図り、磯焼け対策を推進するとともに、「やせウニ」を有効活用した新しい畜養・出荷モデルを構築することで、漁業者の所得向上を図ることを目的とした、「黄金のウニ収益力向上推進事業」に取り組んでいます。
- ・ 令和3年度は、種市漁協、久慈市漁協、新おおつち漁協、綾里漁協で実証試験が行われ、採算性や消費者の反応などを確かめるための試験出荷が始まるなど、“ウニの二期作”に向けた取組が各地で進められています。



磯焼け漁場の「やせウニ」



事業で実入りを向上させたウニ

Ⅲ まとめ

漁業を取り巻く環境や社会経済情勢が変化している中、「なりわい」としての漁業の魅力を向上させるためには、今回の調査で重要項目とされた「やりがい」や「能力の活用」などを重視しながら、課題項目とされた「将来への希望」や「経営目標」、「漁業就業者支援」、「消費者とのつながり」、「漁場環境」、「収入水準」、「努力の反映」の視点から、改善の取組を戦略的に推進していく必要があります。

このため、県では、令和2年3月に策定した「岩手県漁業担い手育成ビジョン（令和3～4年度）」に基づき、市町村や漁協、漁業関係団体と連携し、次代を担う意欲ある新規漁業就業者の確保・育成と地域漁業の核となる強い経営体の育成を推進しているところです。

具体的には、養殖業では、それぞれの漁場の利用状況を「見える化」しながら、省力化機器やワカメ大型人工種苗等の新技術の導入、サケ・マス類等の新規養殖対象種の導入などの取組を推進しています。

漁船漁業では、近年、資源量が増加しているマイワシを対象とする試験操業や、国のTAC制度に基づいた資源管理などの取組を推進しています。

採介藻漁業では、磯焼けの改善に向けたコンブ等の海中林の造成や、漁場に過密に生息し身入りが悪く経済的価値がない「やせウニ」を特定の漁場に移植・蓄養し、実入りの向上を図るなどの付加価値向上の取組を推進しています。

今後も、引き続き、これらの取組を積極的に推進することにより、漁業者の満足度の向上とともに、「なりわい」としての漁業の魅力の向上を図っていきます。

【トピック②】いわて水産アカデミーによる漁業人材の育成

- ・ 平成31年4月に、漁業就業者の確保と地域漁業の次代を担う人材の育成を目的とした、本県独自の漁業研修機関「いわて水産アカデミー」が開講されました。
- ・ 当アカデミーでは、研修期間を4月～翌年3月の1年間に設定し、①漁業就業に必要な基礎的な知識や技術などを学ぶ集合研修Ⅰ、②ICT等を活用した最新の漁業経営などを学ぶ集合研修Ⅱ、③漁業現場において指導者のもとで技術を学ぶ実践研修といった、周年型のプログラムを実施しており、修了生は本県漁業の第一線で活躍を始めています。



独立に向けて歩み出した新規漁業就業者の姿
(写真提供：公益財団法人岩手県漁業担い手育成基金)

令和3年度 漁業担い手満足度調査【調査票】

本県の漁業就業者は、後継者不足と相まって高齢化と減少が続いており、新規就業者の確保が喫緊の課題です。本調査は、現場で活躍する漁業者の皆様を対象に、日々の仕事に対する満足度やその源泉となる要因を把握することで、本県における漁業就業の魅力として誇れるものや不足しているものを共有し、漁家子弟・未経験者の漁業就業への動機付けや就業環境の改善を図るための参考とするものです。
本調査の趣旨を御理解いただき、御協力お願いいたします。

※ 本調査で得た情報については、**目的以外には使用しません。**
また、集計結果のみを使用するため、**個人情報**がそのまま外部に漏れることはありません。

◆ 漁業に関するさまざまな項目について、あなたの満足度をお伺いします。

問1. あなたは総合的に考えて、現在の漁業の仕事や環境にどの程度満足していますか。7段階評価（1～7、大きいほど「満足」）でご回答ください。

(回 答)

非常に「不満」 ← 1 2 3 4 5 6 7 → 非常に「満足」

ふつう

問2. 次の各項目について、どのように感じていますか。あてはまる番号に○印をつけてください。

	そう 思わない	あまり 思わない	まあ そう	そう 思う
(1) 漁業にやりがいを感じている。	1	2	3	4
(2) 漁業者としての自分の将来に希望を感じている。	1	2	3	4
(3) 水産物の食糧供給を担う責任ある仕事だと思う。	1	2	3	4
(4) 自分の能力が活かせる仕事だと思う。	1	2	3	4
(5) 自分の生産物や地域のブランドに誇りをもっている。	1	2	3	4
(6) 体力と意欲が続く限り働き続けられる仕事だと思う。	1	2	3	4
(7) 仕事を通じて人として成長できると思う。	1	2	3	4
(8) 自身の能力向上（試験研究、研修、講習会等）の機会に恵まれていると思う。	1	2	3	4
(9) 自分には明確な経営目標がある。	1	2	3	4
(10) 現在の漁業経営の規模を拡大したい。	1	2	3	4
(11) 他の漁業者等との共同生産に興味がある。	1	2	3	4
(12) 後継者、又は後継者として見込んでいる者がいる。	1	2	3	4
(13) 地域に尊敬できる漁業者がいる。	1	2	3	4
(14) 必要なときに他の漁業者に相談できる環境にある。	1	2	3	4
(15) 地域には、漁家子弟や未経験者の漁業就業を支援する環境が整っていると思う。	1	2	3	4
(16) 近隣住民とのつきあいが多く、地域とのつながりが深い。	1	2	3	4
(17) 消費者と対話する機会を積極的に確保している。	1	2	3	4
(18) 所属する漁協の組織運営や経営方針、取組等（「地域再生営漁計画」等）に理解を示している。	1	2	3	4
(19) 地域の漁業者はルールを守って操業している。	1	2	3	4

【裏面に続きます】

	そう 思わない	あまり 思わない そう	まあ そう 思う	そう 思う
(20) 十分な <u>漁業権の行使機会</u> に恵まれている。	1	2	3	4
(21) 必要なときに <u>漁協に相談</u> できる環境にあると思う。	1	2	3	4
(22) 地域には年齢、経験、性別に応じて、 <u>それぞれの役割を発揮</u> できる漁業生産環境が整っている。	1	2	3	4
(23) 現在の自分の <u>仕事量や労働時間・休暇のバランス</u> は 適切な水準だと思う。	1	2	3	4
(24) 漁業生産のために十分な <u>労働力</u> が確保できている。	1	2	3	4
(25) 漁業生産のために十分な <u>設備・機器</u> が整っている。	1	2	3	4
(26) <u>漁場の生産環境</u> は良好である。	1	2	3	4
(27) <u>生産物の単価</u> は適切な水準だと思う。	1	2	3	4
(28) <u>生産物の評価基準や評価体系</u> は明確だと思う。	1	2	3	4
(29) 現在の自分の <u>収入</u> は適切な水準だと思う。	1	2	3	4
(30) 自分の <u>努力</u> は収入に適切に反映されていると思う。	1	2	3	4

◆ あなたご自身のことについてお伺いします。

問3. 各項目について、あてはまる番号（複数ある場合は主なもの1つ）に○印をつけてください。

- ①居住地 1. 久慈地区（洋野町・久慈市・野田村・普代村）
2. 宮古地区（田野畑村・岩泉町・宮古市・山田町）
3. 釜石地区（大槌町・釜石市） 4. 大船渡地区（大船渡市・陸前高田市）

- ②属 性 1. 指導漁業士 2. 青年漁業士 3. 若手漁業者

※指導漁業士：66歳以下で、知事の認定を受けたもの 青年漁業士：46歳以下で、知事の認定を受けたもの
若手漁業者：指導漁業士、青年漁業士以外で着業から10年以内の漁業者

- ③性 別 1. 男 2. 女

- ④年 齢 1. 29歳以下 2. 30～39歳 3. 40～49歳 4. 50～59歳 5. 60歳以上

- ⑤漁業就業年数 1. 9年以下 2. 10～19年 3. 20～29年 4. 30～39年 5. 40年以上

※家族従事者（手伝い）としての就業期間も含めた通算期間

- ⑥令和2年度の年間収入 1. 200万円未満 2. 200万円以上～400万円未満 3. 400万円以上～600万円未満

※漁業外収入を含む 4. 600万円以上～800万円未満 5. 800万円以上～1,000万円未満 6. 1,000万円以上

- ⑦主な漁業種類 1. 漁船漁業 2. 養殖業 3. 採介藻漁業 4. その他（ ）

問4. 令和2年度における主な生産物・漁獲物について、販売金額が多い順にご記入ください。

(回答欄)

- ① _____ ② _____ ③ _____

◆ 県の新規漁業就業者の確保・育成施策に関して、御提案や御意見がありましたら、ご記入ください。

設問は以上です。御協力ありがとうございました。



帰港の風景

令和3年度漁業担い手満足度調査報告書

令和4年11月

岩手県農林水産部水産振興課

〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10-1

電話：019-629-5806 FAX：019-629-5824